

## 資源の持続的利用に向けたマグロ2種の産卵生態と初期生活史に関する基礎研究」 キックオフ・シンポジウム開催

11月17日、技術協力プロジェクト「資源の持続的利用に向けたマグロ2種の産卵生態と初期生活史に関する基礎研究」のキックオフ・シンポジウムが開催されました。シンポジウムには、パナマ側より、エミリオ・キースウェッテル (Emilio Kieswetter) 農牧開発大臣、ジョヴァンニ・ラウリ (Giovanni Lauri) 水産資源庁 (ARAP) 長官、我が方より、水城大使、薬師寺地球規模課題対応国際科学技術協力 (SATREPS) 運営統括、宮下近畿大学水産研究所長、表 JICA パナマ支所長他多数関係者が出席しました。

シンポジウムは、キースウェッテル農牧開発大臣、水城大使が挨拶を行った後、薬師寺運営統括より、SATREPS の意義や目的についての紹介、宮下所長より、近畿大学水産研究所の歴史や研究内容についての紹介、ラウリ長官より、本技術協力に対する期待が述べられました。その後、近畿大学水産研究所、全米熱帯マグロ類委員会 (ATTC)、アチョチネス研究所の研究者より、本技術協力の役割分担、及び、担当する分野に関する研究の紹介が行われました。

キースウェッテル農牧開発大臣は、挨拶の中で、「まずは日本政府による協力を感謝したい。また、JICA、JST、近畿大学と水産資源庁、全米熱帯マグロ類委員会、アチョチネス水産研究所のコラボレーションによる研究に期待すると共に、本研究をきっかけに、パナマの科学技術全体の向上につながることを願う。」と述べました。

また、水城大使は、「日本政府は、責任ある漁業国として、国際的なルールを守っていくとともに、国際的な漁業資源の維持と管理努力に対して積極的に関与していく方針であり、本共同研究の着実な進展と成功を心より祈念する」と述べました。(大使の挨拶全文は別リンク)



キースウェッテル農牧開発大臣の挨拶の様子



水城大使の挨拶の様子

### 資源の持続的利用に向けたマグロ2種の産卵生態と初期生活史に関する基礎研究」

- ①実施機関 :近畿大学水産研究所、アチョチネス水産研究所、全米熱帯マグロ類委員会、
- ②実施期間 :2011年4月～2016年3月
- ③予算規模 :3.7億円 (450万ドル)
- ④案件概要 :マグロ類2種 (太平洋クロマグロ、キハダマグロ) を比較することにより産卵生態や初期生活を明らかにし、資源管理に必要な知見を蓄積、統合する。